

## 湯本目次案についての問題提起

ーひとそれぞれの列島プロジェクトー

辻野・佐々木・瀬尾  
村上・川瀬・石丸

1

## そもそものはなし

2

## 「シリーズ本」の位置づけ

列島プロジェクトの集大成である。

で、あるならば、  
「列島プロジェクトらしい」本  
であってほしい。

では、「列島プロジェクトらしさ」とは？

3

## 列島プロジェクトを特徴づける要素

漫画のような博識なリーダー



© 磯野

4

## 列島プロジェクトを特徴づける要素

いろいろな人がいて、  
(大御所、中堅、若手)

いろいろな研究をやっている  
(時代も場所も手法も様々)

5

## 発想方法の違い

### ■ 生態学者の発想

時間と場所は問わない

人間以外の生物が対象であり、人は攪乱要因  
一般化できる要素をとりだしやすいことが重要  
一般性重視

### ■ 歴史学者の発想 (\*イメージ)

時間と場所を明示するのが研究の大前提

人間の営みが対象であり、生物は背景に過ぎない  
個別性重視

6

## 列島プロジェクトらしさ、とは？

歴史学者（文系）の論点：生活文化の多様性（人中心）  
[白水 2005]

+

生態学者（理系）の論点：生物多様性（人以外）  
[湯本 2003]

||

生物文化多様性（？）

同じ舞台上がって踊るのが  
「列島プロジェクトらしさ」？

7

## ある生態学者からみた 列島プロジェクト

シリーズ本の目次：辻野案

8

## このプロジェクトの根本的な問い ～日本列島はなぜ生物多様性が高いのか

- 仮説① 豊かで多様な環境条件
- 仮説② 地史的要因.
- ◎ 仮説③ 自然を「賢明に」利用してきたから。
  - 日本という人口稠密地帯でも生物多様性が損なわれないような、持続的な森林資源利用を行ってきた

人間と自然の関わり方はどうなっていたのだろうか？

9

## 自然と人間の関わり方～生物資源利用

- 自然の恵み～生態系サービス～>生物資源
- 「自然と人間のかかわり」とはおもに生物資源の利用
- 再生可能な生物資源であっても、過剰利用は枯渇を招く
- 人間はどのように「食・住・燃料」を自然から得てきたか、それによって自然はどのような影響を受けていたか

10

## 生物資源について

- 生物資源はそもそも生き物
- 最大持続収穫可能量～もしこれ以上収奪すると生物個体群が絶滅してしまう  
(cf. 貯金, 元本, 利子)
- 資源を持続させつつ利用量を高めるためには
  - i) 潜在資源の管理. たとえば植林・栽培など
  - ii) 利用量の管理. ある年にたくさん利用すると翌年以降の潜在資源量が減る  
たとえば, 別のよく似た資源を利用する  
代替資源への移行は生物多様性のおかげ

11

## 生物資源の破綻とその後

資源の必要量 = 人口 × インパクト  
人口もインパクトも指数関数的に上昇する  
しかし, 資源獲得はそうはいかない  
いつか必要量が供給量を上回り, 破綻する

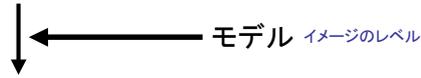
- 資源を収奪しすぎて破綻しない方法はあるのか？
- 持続的・半持続的に生物資源利用できるのか？
- また, 破綻した後人間はどうすべきなのか？  
→  
採取地の広範囲化, よく似た代替資源への移行, 栽培による集約的採取, まるで違う代替資源への移行, 資源管理

12



## 締めくり

さまざまな地域と時代における  
生物資源利用(生物文化)



概念抽出 どういう場合にどうい事が起こるのか  
 ・ 枯渇と克服は？  
 ・ ガバナンスはなぜ生まれる？  
 ・ 生物多様性を維持する生物文化とは？

歴史を再検討 未来に提言

生物多様性が危機に瀕するこの時代に何ができるのか  
 ・ 生物多様性をどう持続させるのか？  
 ・ 現代の何がよくて何が悪いのか？  
 ・ 未来可能性をどう広げるか？

19

## 出版物目次湯本案

冒頭巻(第1巻) — 「ひとつの日本～自然の歴史」

- ・日本列島の生物多様性
- ・生物多様性の基礎となる植物・植生の変遷
- ・生物文化多様性の大切さと現状

間巻(第2～5巻) — 「さまざまな地域の自然と人」

- ・野と原(2), 林と里(3), 海と島(4), 山と森(5)
- ・「環境史年表」—「資源利用」—「重層する環境ガバナンス」

まとめ巻(第6巻) — 「人と自然の相互関係史」

- ・環境史年表
- ・生物文化多様性
- ・賢明な利用と重層するガバナンス

20

## 出版物目次つじの対案

冒頭巻(第1巻) — 「ひとつの日本～自然の歴史」

- ・日本列島の生物多様性
- ・生物多様性の基礎となる植物・植生の変遷
- ・生物文化多様性の大切さと現状

間巻(第2,3巻) — 「さまざまな地域の自然と人」

- ・枯渇をおそれぬ生物資源利用
  - ・枯渇を回避する生物資源利用
- 動機主義で巻を分ち、  
巻内では生態系別にまとめた

まとめ巻(第4巻) — 「人と自然の相互関係史」

- ・生物文化の因果
- ・生物資源の枯渇と克服の環境史
- ・環境ガバナンスの成立とその葛藤
- ・人と自然の相互関係の歴史的・文化的検討

21

## ある古生態学者からみた 列島プロジェクト

シリーズ本の目次：佐々木案

22

## 列島プロジェクトを特徴づける要素

あえてことばにしてみると・・・

いろいろな人がいる、が、  
「ちょっと変わったひと」が多い

たとえば、歴史学において「非政治史」を語る人

たとえば、考古学における「非土器屋」

たとえば、笛を吹く人・・・

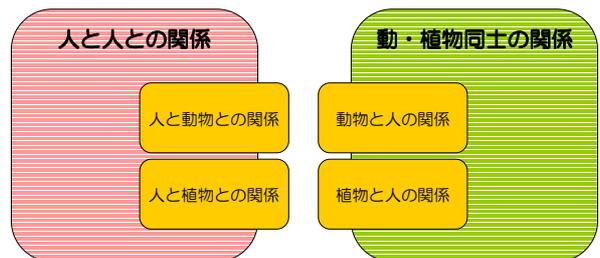
竹を吹く人もいと聞く・・・

23

## 「ちょっと変わったひと」たちの共通点

失礼ないいかたですが・・・

「非主流派」である



24

## 「ちょっと変わったひと」たちの研究テーマ

人間が、どのように自然を利用してきたのか

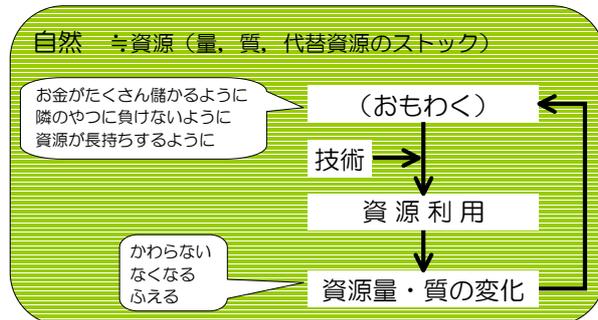
その結果、自然はどのように  
変わって／変わらずにきたのか

その結果、人間の自然利用はどのように  
変わって／変わらずにきたのか

25

## 共通テーマを図にしてみると・・・

(辻野図の簡略版)



このような過程の繰り返しとして歴史をとらえてみる、試み

## 湯本目次案について思うこと

- ・「メンバー全員の研究を網羅するつもりはない」といいながらも、かなり「網羅的」
- ・論理的な構造がみえない
- ・プロジェクトとしてのメッセージがはっきりしない

- 思い切ってさらに「網羅度」を下げる
- メンバーの研究の共通要素をはっきり打ち出す

27

## 佐々木試案

1. 日本列島の生物相はゆたかである。その理由は。
  - A もともとの多様性が高かった（自然条件）
  - B 「獲り尽くさない」ことによって残ってきた
    - B-1 何かしらの工夫があって獲り尽くさなかった
    - B-2 工夫はしなかったけど獲り尽くさなかった
      - 資源の回復力 > 人間の利用圧力
      - 獲る → 資源少なくなる → 入手しにくくなる
      - ほかの資源に乗り換える
    - B-3 獲り尽くしてしまうこともあった
  - C 「生態系をつくりだす／維持する／栽培する」ことによって保全されてきた
2. 現在、日本列島の生物多様性が危機に瀕している。
3. 日本列島のゆたかな人間-自然関係を守るために、どうしていくべきか？

第1巻

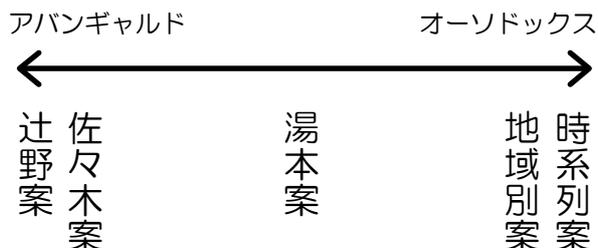
第2巻

第3巻

第4巻

28

## 各目次案の位置づけ



29

守るか？  
攻めるか？

30

## グループ討論の時間

自由に話しあってみよう。

\* 白板に書き込もう

あなたにとっての列島プロらしさとは？

列島プロを貫く論理は？

本を通して発信したいメッセージは？

5つの目次案のうちおもしろいと思うのは？